第十六講・文学的文章⑩

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

> 新しい学級委員長の小林さんは、博士（ひろし）とサンペイ君がのけ者にされていると学活で訴（うった）えたが、サンペイ君はそれを否定（ひてい）した。放課後、福ちゃんはサンペイ君に真意を問いつめたが、きみとはかかわりたくないのだと言われる。福ちゃんはその場を立ち去るが、博士はその後を追いかけた。

「サンペイ君はすごいんだ。福ちゃんが仲良くしてくれたら、みんなサンペイ君のこと、よく分かると思うのに。本当にすごいし、おもしろいんだから。福ちゃんが言っていた、ほら話だって、本当に本当なんだから」

「本当だったら、すごいのか。おれらには関係のない話だべ。あいつも、あいつのおじさんも、勝手に月でも火星でも行けばいいべ」

博士には福ちゃんがなんで、そんなにサンペイ君を目の敵（かたき）にするのか分からなかった。先生だって夢を見ることはいいことだって言うじゃないか。サンペイ君が大きなことを言ったりするのって、そんなに悪いことなんだろうか。

①「福ちゃん、おかしいよ。福ちゃんってもっと分け隔（へだ）てないんだと思ってた。でも、今はみんな福ちゃんが怖（こわ）いんだよ。だから、ぼくたちに話しかけられない。福ちゃんはそんなんでいいの？」

福ちゃんがはっとした顔で、博士を見た。

「ハカセにそんなこと言われるとなあ……」と小さく呟（つぶや）いた。「おれ、頭、悪いし、おやじは家を継（つ）げって言うし、たぶん高校出たらそうなるんだべさ。けど、ナカタは勉強すりゃあ、一番になれるやつだ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

でも、やらん。それで、一人でスカしてる」
「福ちゃんは、クラスの人気者じゃないか。みんな福ちゃんが好きだし、いるだけでぱっと明るくなる。サンペイ君のこと、気にすることなんてないんだよ」
「そうだべか……」
②福ちゃんは唇を噛んでいた。博士には分からなかったけど、福ちゃんにとっては大きなことなんだというのが伝わってきた。
サンペイ君はもう帰ってしまっていたので、博士はサンペイ君の家に向かった。
離れの部屋にはサンペイ君はいなかった。たぶん川に行ったのだと思って博士はいつものポイント＊1に向かった。はたして、サンペイ君は一人で釣り糸を垂れていた。
「やあ、ハカセ君」サンペイ君は後ろ向きのまま言った。
「福ちゃんと仲直りした方がいいと思うよ」博士はいきなり核心＊2に切り込んだ。
「やつはぼくが気に入らないのだよ。瓢箪池のヌシのことだって、やつは信じようとしないからね。こっちはおじさんが釣りかけて、糸を切られるのをこの目で見ているのだ。ヌシはぜったいにいるのだ」
「ぼくはクラスのみんなにサンペイ君のこと、もっと知ってほしいんだよ。こんなにすごいし、おもしろいのに、みんな全然知らないんだ」
「そんなことはいいのだよ、ハカセ君。ぼくたちは遠くにいくのだから、小さな教室にかかわることはないのだ」
「でも、みんなと仲良くやれた方が、楽しいじゃないか。サンペイ君はおかしい。なんか逃げてるみたいだ」
言ってしまった後で、博士ははっとして口に手を当てた。
サンペイ君の肩が震えていた。水面の浮きにアタリが来ているのに、竿を動かそうともしない。
博士は話しかけられずに、じっと背中を見ていた。しばらくしてサンペイ君が大きく息を吸い込んだ。
③背中を向けたまま、「ハカセ君、帰ってくれたま

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

えよ」と威圧的[*3]に言った。

博士はそのまま□家路についた。

（川端裕人『今ここにいるぼくらは』）

＊１ポイント＝地点。
＊２核心＝物事の中心となる部分。
＊３威圧的＝相手をおそれさせ、おさえつける様子。

問一　――線①「福ちゃん、おかしいよ。……福ちゃんはそんなんでいいの？」とありますが、このとき博士はどんな気持ちで福ちゃんにことばをかけていますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　福ちゃんがサンペイ君を目の敵にする理由がどうしてもわからず、福ちゃんの態度を非難する気持ち

イ　サンペイ君の夢に対して福ちゃんがどう思っているかがわからず、福ちゃんの考えを知りたいと思う気持ち

ウ　サンペイ君にだけ態度を変える福ちゃんが本当はサンペイ君のことをどう思っているのかをさぐろうという気持ち

エ　福ちゃんが必要以上にサンペイ君のことを気にしているので、そんなに気にすることはないとはげます気持ち

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　――線②「福ちゃんは唇を噛んでいた」とありますが、なぜ福ちゃんは「唇を噛ん」だのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　自分を気づかう博士に負けた気がしてくやしかったから。

イ　サンペイ君を必要以上に意識していたことに気づいたから。

ウ　自分を気づかってくれる博士のやさしさがうれしかったから。

エ　サンペイ君を目の敵にするのはまちがいだとわかったから。

問三　――線③「背中を向けたまま、『ハカセ君、帰ってくれたまえよ』と威圧的に言った」ときのサンペイ君の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　無神経な発言をされたことに対して激(はげ)しくいかる気持ち

イ　あまりにあたりまえのことを言う博士を軽(けい)蔑(べつ)する気持ち

ウ　痛(いた)いところをつかれた動ようをかくそうと強がる気持ち

エ　博士の言っていることはまちがいだと強く反発する気持ち

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　[　]にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　とぼとぼと　イ　てくてくと

ウ　どたどたと　エ　さばさばと

[　　]

問五　この文章の表現の特色について述べたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　登場人物の行動を写実的な表現で冷静に追っている。

イ　会話を多用して登場人物の心の動きをえがき出している。

ウ　場面の情景が、効果的な比喩(ひゆ)であざやかに映(うつ)し出されている。

エ　短文の積み重ねで、スピード感あふれる展(てん)開(かい)になっている。

[　　]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

博士(ひろし)は一人きりだった。

相変わらずクラスのみんなとは話せなかったし、サンペイ君も博士と視線(しせん)が合うのを避(さ)けていた。だから、学校では一人きり。以前にもまして、たくさんの本を読み、いろいろ考えたり、煮詰(につ)まったり。

ぼくがいるべき場所はここじゃない。そんな感覚がよみがえってきて、お腹(なか)の中をぐるぐると巡(めぐ)っていた。

それでも、なんとか耐(た)えられた。一人でいることに耐えることとって、ひょっとするとサンペイ君が博士に教えてくれたちょっとした技術かもしれなかった。博士は家の近くの川で釣(つ)りをすることを覚えたし、自宅(じたく)の水槽(すいそう)で*タナゴも飼い始めた。友達がいなくても、本と釣り竿(ざお)があればそれなりに満ち足りていられたのだ。

釣りっていい。辛(つら)いことを忘(わす)れられる。

どうして釣りを始めたのか聞かれたら、たぶん博士はそう答えただろう。

冬だから寒くて、博士は鼻水をたっぷり垂(た)らしながらも、川に出るのはやめなかった。

①<u>博士はこんな日が、ずっと続くのを覚悟(かくご)していた。</u>中学ではさすがにそんなことはないだろうけど、小学校の間はこのままなのだ。覚悟すれば、しっかりとした気分でいられた。

でも、変化というのはいつも突然(とつぜん)だ。二月十四日、バレンタインデーの朝、いつものように登校して教科書を机(つくえ)に移そうとすると、中からごそりと小さな包みが二つ、三つ落ちた。

最初はなんのことか分からなかったのだが、すぐに理解して博士は［ A ］。きっと耳たぶの先まで赤かったに違(ちが)いない。

チョコレートなのだ。博士は自慢(じまん)じゃないけれど、これまでもらったことがなかった。それが今年に限って、いくつももらえるなんて。机の中に手を入れてさぐってみると、最初に落ちたやつだけではな

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

く十個以上はありそうだった。

　紙の感触が指先にあって、博士はそれを引っ張り出した。封筒だった。

〈大窪君と中田君はとてもがんばっていると思います。そんけいします。女子のみんなからチョコレートをおくります〉

　視線を上げると、小林委員長がこっちを見て、リスみたいな大きな前歯を出して笑っていた。

　②そういうことだったのか。女子全員が博士のことを励ましてくれたのだった。

「今年は福ちゃんにはなしだって。去年は十個以上もらっただろ。ショック大きいぜ」

　斜め後ろの男子が耳打ちしてきた。えっ？　と耳を疑った。博士にわざわざ話しかけてきたのだ。福ちゃんを見ると確かにうなだれた感じだったけど、それ以上に博士は［B］、という事実に戸惑った。

「あたしたちは仲間はずれをつくるような男子にはチョコあげないからね！」小林委員長が大声で言うと、どっと笑いが起きた。

　③クラスを成り立たせている力学がコトリと小さな音を立てて組み替わる。その日から、誰も博士に話しかけるのをためらわなかったし、福ちゃんも謝りこそしなかったけれど、また以前のように博士を扱うようになった。

　すべては元通りだった。博士が、サンペイ君と親しくなる前とまったく同じ。サンペイ君は、誰とも話をせず、授業中もただずっと窓の外を見ていた。博士はそのごわごわした後頭部を時々見ては、④胸がチクリと痛んだ。

（川端裕人『今ここにいるぼくらは』）

＊タナゴ＝フナに似た、コイ科の淡水魚。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「博士はこんな日が、ずっと続くのを覚悟していた」とありますが、「こんな日」とは、博士がどんな状態でいる日のことですか。文中から四字で書きぬきなさい。

問二　[A]にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　顔からさーっと血の気がひいた
イ　ほーっと大きく息をはいた
ウ　顔がかーっと熱くなった
エ　へーっと心の底から感心した

問三　――線②「そういうことだったのか」とありますが、博士はどういうことがわかったのですか。「仲間はずれ」「女子全員」「チョコレート」ということばを使って説明しなさい。

問四　[B]にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　話しかけられた
イ　チョコをもらった
ウ　謝られた
エ　福ちゃんにチョコがなかった

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　――線③「クラスを成り立たせている力学がコトリと小さな音を立てて組み替わる」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　女子全員が福ちゃんをきらったことで、だれも福ちゃんを相手にしないようになったということ

イ　女子全員が認めたことで、クラスの中心が福ちゃんから博士とサンペイ君に変わったということ

ウ　女子全員が抗議の意思を示したことで、みんなが福ちゃんに従わなくてもいいようになったということ

エ　女子全員が博士にチョコをおくったことで、みんなの注目が博士に集まるようになったということ

問六　――線④「胸がチクリと痛んだ」とありますが、このときの博士の気持ちを原因もふくめてかんたんに説明しなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講　文学的文章⑩

一題目

問一　ア
問二　イ
問三　ウ
問四　ア
問五　イ

二題目

問一　一人きり
問二　ウ
問三　（例）女子全員が仲間はずれにされていた博士（とサンペイ君）を励ますためにチョコレートをくれたのだということ。
問四　ア
問五　ウ
問六　（例）自分はみんなと元通りに話すようになったが、サンペイ君だけが一人きりのままで、申し訳ないと思う気持ちになったから。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。